

友の会だより

令和7年
9月
No.56

秋田県立博物館友の会 〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山 52 Tel 018-873-4121 Fax 018-873-4123 E-mail: info@akihaku.jp

令和7年度友の会役員からの寄稿／活動報告

令和7年度 秋田県立博物館友の会総会

令和7年4月27日(日)
役員会 10時30分～12時 (館職員含め8名)
総会 13時～14時 (館職員含め9名)
研修(企画展解説会) 14時10分～14時40分

今年度の会計予算案や事業計画案などをめぐり、活発な議論が交わされました。詳細は、前回(6月末に)送付しました会議資料をご覧ください。

特に重要な協議内容は次の通りです。

①『真澄紀行』改訂版の刊行・販売

ミュージアムショップで在庫切れとなっていた図録『真澄紀行』について、今年3月末に博物館職員による改訂作業が完了しました。これを受け、今年度の特別会計から制作費を支出し、1,000冊刊行することが承認されました。現在、ミュージアムショップにて販売中です(定価税込1,500円)。

②資料整理ボランティアへの活動助成

従来通り、地質ボランティアを除く4団体へ各10,000円の補助金を支給することが決定しました。

また、役員補充についても提案がなされ、元館長である伊藤真氏の副会長就任が承認されました。

総会終了後は展示室へ移動し、企画展「昭和のアクター百年のくらしをつづる」の解説会を実施しました。当時身近に使われていた道具類を目の前にして、参加者は懐かしい思いに浸っていました。(事務局)



友の会から刊行した図録『真澄紀行』改訂版

新役員自己紹介

副会長 伊藤 真

30年ほど前、友の会に入会しました。博物館入館が有料だった頃です。会の活動には、20年前くらいに研修旅行に数度参加した程度ですが、参加の皆さんの好奇心旺盛な姿、会員同士の交流を楽しんでいる様子が印象的でした。その後、縁あって博物館職員となって、昨年春に役職定年で辞しました。友の会の再スタートに微力ながらお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度 県内研修旅行

「矢島歴史探訪と桑ノ木台湿原散策」

令和7年5月31日(土)～6月1日(日)

参加者 12名(会員以外含む、同行の館職員除く)

今年5月に友の会に入会して、初めて研修旅行に参加させていただきました。天気予報では二日間とも雨マークでしたが、両日共に晴れて用意していた傘の出番はありませんでした。

秋田駅で待ち合わせてスタートです。遠足を思い出してワクワクした気分になりました。秋田駅から羽越線で羽後本荘駅に行き、初めて由利高原鉄道(鳥海おもちゃ列車「なかよしこよし」)に乗車しました。おばこ娘に扮装した女性がガイドしてくれて、楽しいひとときでした。矢島駅では有名な「矢島駅のまつ子さん」が出迎えてくれ、心のこもった「おもてなし」にも感激しました。



列車アテンダントの女性と一緒に矢島駅前前で記念撮影

駅前食堂で昼食を終え、次は「矢島見どころ案内人の会」のガイドさんに案内され町並みを散策しました。静かな町に歴史を感じる大きなお寺（龍源寺：矢島藩主生駒氏の菩提寺）がありました。町人に支えられ栄えた町だったのではないかと想像しました。

その後はお楽しみの天寿酒造の見学です。広い工場の中を見て歩き、酒造りの工程を学びました。何と手間ひまかけて作られているのか、頭が下がる思いです。最後に試飲させていただいたお酒の何とおいしかったことか。私の大好きなテレビ番組「ブラタモリ」の世界へ入り込んだような気分になりました。

二日目は桑ノ木台湿原のトレッキングでした。桑ノ木台湿原は鳥海山東麓に位置し、天然記念物の植物や希少種も多くみられる、豊かな自然生態系が広がっている湿原です。前日夕方からの雨で歩道はぬかるんでいましたが、当日は晴天になりました。ガイドさんから初めて見聞きする草花や木の説明を受けながら、泥道に足をとられないように注意してのトレッキングでした。新緑の木々の間から降り注ぐ日差しに、自然の素晴らしさを感じました。例年だとこの頃はレンゲツツジなどが満開になり、鳥海山と桑ノ木台湿原とのパノラマが絶景のようですが、残念ながら今年はまだつぼみで、鳥海山の山頂も雲で覆われ山全体は見られませんでした。それでも皆さんと記念写真を撮り、その雰囲気を楽しみました。再度ツツジが満開の頃に訪れてみたいと思いました。

今回の研修旅行は歴史と自然に触れる事のできた、とても内容の濃い楽しい旅行でした。そして新たに知り合えた方々との交流も大きな収穫でした。

(武田洋子、加納琴子)



桑ノ木台湿原から見た鳥海山（山頂は雲で覆われている）

新入会員自己紹介

考古ボランティア 熊谷慶子

「縄文に魅せられて」

私が初めて遺跡を訪れたのは、もう30年位前、三内

丸山遺跡でした。私の縄文のイメージは石器人に近いもので、狩猟を主にし、縄目の土器を作るという程度でした。それが意外に豊かな食生活だったことを知り、朱塗りの器や土器、可愛いポシェット等の生活道具、巨大な物見台や集会所を見学し、そしてあの不思議な土偶を見て、自分の無知さを恥じ入るばかりでした。

それからまた年月を経て、大湯や伊勢堂岱にも行き、全国の土器や土偶を知ると、ますます興味が湧き好きになりました。そしてまず何よりも、一万年の間、厳しい自然環境の中、人々が協力し、創意工夫し、深い祈りを捧げ、芸術的にも感性豊かに生活していたことに敬服の念を抱きました。北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録されましたが、全国の縄文人を尊敬したいと思います。

今、自分の時間を利用して少しでもお手伝いができる、考古ボランティアに入会しました。ついて行くのに精一杯ですが、好きなことを話し合い教えてもらい、一緒に行動できることがとても嬉しいです。県内の知らない遺跡も多く、学べることも楽しいです。

私たちの未来のために、縄文人に教えてもらうことが案外多くあるような気がしてなりません。



考古ボランティアの活動風景（貝輪作り）

事務局から

同封した別紙要項の通り、10月23日（木）には秋田県公文書館と秋田大学附属鉱業博物館をめぐる県内研修（施設研修）を計画しています。両施設の収蔵庫に入り、ボランティアスタッフの活動状況も見学できる予定となっております。会員の皆様にご参加いただければ幸いです。加えて、10月5日（日）には会員対象の企画展解説会も開催します。

また、「友の会」資料整理ボランティアも定期的な活動を継続しています。少しでもボランティアのことが気になる方は、お誘い合わせの上、気軽に活動の様子を見学してみませんか？詳しくは、友の会事務局（博物館内）までお問い合わせください。